



香川大学からつながる
校友コミュニケーション

**Kadai
SALON**

香川大学校友会会報



校友会は会員の皆さんが充実した 学生生活を過ごすために支援を行います。

食の支援や就職活動など、対象を限らない支援だけでなく、修学支援や海外留学支援などの個別支援も、大学の各部署と協力して実施しています。

学生生活支援・修学支援

01 食の支援 学生応援Dayを開催

今年度も食による生活支援を2回に分けて企画しました。

第一弾は、令和6年7月に各キャンパスにおいてカレー、親子丼にデザートを付けて提供しました。また、令和7年1月にははっぼうどん、あん餅雑煮、かつ丼とみそ汁を提供しました。香川の食文化に触れてもらう楽しい機会となりました。

*食の支援の企画運営は、香川大学学生生活支援課及び香川大学生生活協同組合が行い、必要な費用は香川大学校友会が支援を行いました。

02 学業優秀表彰の 皆さんへ記念品を贈呈

各学部・研究科から推薦のあった、学業成績優秀者55名(学部学生40名、大学院学生15名)に、学長から「学業優秀者表彰」を行いました。表彰状とともに記念品として校友会から、Amazonギフト券を贈呈しました。

03 学術研究活動表彰者の 皆さんへ記念品を贈呈

学術研究活動において特に顕著な業績を挙げたと認められる大学院生を表彰するもので、9名が受賞しました。受賞者には、副学長(教育担当理事)から表彰状が授与され、校友会からはAmazonギフト券を贈呈しました。
★第2回が2025年3月頃予定

04 コミュニケーション支援アプリ 「UDトークアプリ」を契約

聴覚障がいのある学生の修学支援として、会話の見える化アプリ「UDトークアプリ」を年間契約しました。このアプリは学生が講義を受けるときに、話者の声をBluetooth接続のマイクを通して文字変換し、表示します。このデータをノートテイカーの学生さんが修正することで、授業の理解をより支援しています。

*この支援は、学生支援センター バリアフリー支援室を通じて実施しました。

05 抗原定性検査キットの購入

学生に対して安心安全な学生生活を送れるよう、コロナウイルス及びインフルエンザ感染対策として抗原定性検査キットを支援しました。

今後も、より安心安全な教育・研究環境を支援していきます。

*抗原定性検査キットの使用等については、保健管理センターが決定・判断します。



06 教育補助業務を通じた 学生への経済的支援

優秀な学生に対し教育的配慮の下に教育補助業務を行わせることにより、経済的支援に資するとともに学生相互の成長を図ることを目的とするスチューデント・アシスタント及びティーチング・アシスタント制度の経費の補助を行いました。

07 学生参考図書 購入費への支援

在籍している学部学生及び大学院学生のために、図書等(専門書、学術書、文芸書などの書籍)を購入し、図書館中央館、医学部分館、創造工学部分館、農学部分館に合計607冊寄贈しました。

就職活動支援

08 全学年の就活を応援! WEB版「香川大学 就職手帳2024」制作を支援

今年度も引き続き、就職活動に必要な事項をまとめたWEB版「2024年度版就職手帳」作成を支援しました。就職活動のポイントを分かりやすく紹介する「就職活動欄」や大学オリジナルコンテンツの「大学概要」、「キャリア支援センター案内」などをご覧いただけます。就職手帳は全学年が利用できるようになっています。

就職活動前の学生さんも、広くご利用いただけるサイトですので、ぜひご利用ください。

海外留学支援

09 協定校留学プログラム、 国際学会発表参加者への 支援を行いました

円安をはじめ留学費用の増加が海外留学の大きな経済的障壁となっていることから海外留学への参加意欲が高いにも関わらず、断念している学生の海外渡航を後押しすべく、支援を行っています。

*支援の内容については、インターナショナルオフィスの審査により決定します。

環境整備支援

10 校内美化を実施しました

学生の皆さんが授業や課外活動等に専念できるように、ハンドボールコートの除草、音楽系サークル共同練習場の高木剪定の環境整備を行いました。施工業者の方に丁寧に除草工事をしていただきました。今後も毎年実施していく予定です。

11 課外活動共用施設の Wi-Fi整備を支援

課外活動共用施設における環境整備の一環としてWi-Fiを各階に設置し、サークル活動の利便性を図る支援をしました。

12 学生会館の環境整備

1階食堂のループ脚の椅子で、壊れかけているものがあることから安全面を考慮して、4本脚の椅子に交換していく支援をしました。

災害対策支援

13 学生の安全を守ります

学生の安全を確保するため、災害対策用Starlinkを導入し、大規模災害時の通信ネットワークの整備を支援しました。



14 緊急簡易トイレセット購入

大規模災害発生時に、大学を一時的避難場所として使用する場合、断水による水洗トイレの利用不可能の可能性があるため、各キャンパスに簡易トイレキットの購入を支援しました。

その他

15 保護者向け広報誌 「OLIVE通信」への支援

香川大学広報室発行の広報誌「OLIVE通信」は、在校生の保護者向けの広報誌として年2回発行しています。校友会では、制作の支援をしました。

16 学長杯スポーツ フェスティバルへの支援

スポーツを通して教員・職員・学生とのコミュニケーションと交流の促進を目的としたもので、今年度は、硬式テニス、ソフトバレー、卓球、ソフトボルの4種目で実施し、約130名の参加者がありました。校友会からは、競技道具の購入と水分補給としての飲料、競技における優勝・準優勝チームへの景品及び参加者全員への参加賞を支援しました。

令和6年度理事会を開催

令和6年度の校友会理事会を5月24日に開催しました。上田会長の進行により、「役員等の改選」、「令和5年度事業報告及び収支決算」、「令和6年度事業計画及び収支予算」について議題を審議し、了承されました。

同窓会紹介

創造工学部 創発科学研究科 緑晴会 RYOKUSEIKAI



香川大学には学部ごとに同窓会があり、現在は8団体が活動しています。

「緑晴会」とは、香川大学創造工学部の前身である香川大学工学部が平成9年10月に創設され、翌4月に初めての新生生を受け入れた。緑晴会はこの第1期生の卒業に併せて、平成14年3月に創設しました。工学部創設20周年および25周年の節目には周年記念として同窓会名簿を発刊しました。創設から20数年が経過し、現在は香川大学工学部、創造工学部、大学院工学研究科、大学院創発科学研究科工学系領域の同窓会組織として、6,000人を超える会員数の組織となりました。緑晴会は創設から現在まで、母校の発展に寄与する目的で活動を継続しています。

教育学部 松楠会 SYOUNAN-KAI	法学部経済学部 又信会 YUSHIINKAI	医学部歯学科 謙樹會 SANJUKAI	医学部看護学科 木蓮会 MOKURENKAI	医学部 蒼の葉会 KOTONOHAKAI	農学部 池戸会 IKENOBORIKAI	地域マネジメント 研究科 地域マネジメント 研究科同窓会
----------------------------	------------------------------	---------------------------	------------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------------------

次号について 医学部看護学科「木蓮会」にスポットを当てます。

校友会会費納入のお願い

会員の皆さまからの会費を財源として支援事業を実施しています。未納の方は、校友会事務局までご連絡ください。専用の払込票をお送りします。

正会員	会費 20,000円 (終身会費)
準会員	会費 20,000円 (終身会費※)
賛助会員	会費 10,000円 (一口)

住所変更のご連絡について
校友会からの会報やイベント等の情報を確実にお手元にお届けするために、卒業生により住所等の連絡先を変更された場合は必ず変更の連絡をお願いします。

個人情報の取り扱いについて
香川大学校友会では、個人情報について適切な方法で取得・管理しており、会報送付など校友会からのご連絡以外での利用は行いません。なお、利用目的の範囲内で、香川大学または各同窓会に、取得した個人情報を提供することがあります。

ご連絡はこちら
香川大学校友会 会員情報変更 検索



剣道部師範・総監督の山神眞一 副学長が最高位称号の範士号授称*



山神眞一副学長(学生支援・広報・特命担当)が、5月6日に京都市武道センターで実施された全日本剣道連盟審査会で、最高位の称号である範士を授称しました。範士は名実ともにふさわしいと認められた人物にしか授与されない大変希少な称号であり、本年度、全国で僅か15名の授与者の1人に選ばれました。香川県では現存者のうち3人目の快挙となります。

*教育部卒業生

高尾英邦教授が 「第24回山崎貞一賞」を受賞



高尾英邦教授(微細構造デバイス統合研究センター長/創造工学部機械システム工学領域)が、「指先の触覚を超越可能な半導体ナノ触覚センサと各種センシングシステムの創製の業績により、第24回山崎貞一賞を受賞されました。山崎貞一賞は、一般財団法人材料科学技術振興財団の初代理事長を務めた山崎貞一氏の科学技術および産業の発展に対する功績、人材の育成に対するの普及啓発に寄与することを目的として平成13年に創設されました。

教師のキャリアプランニング 支援システムの開発・導入



「学び続ける教師」を支援し教員研修の高度化を図るため、香川大学は文部科学省の委託を受け、香川県教育センターとの連携の下、株式会社KAKEAIの技術協力を得て、「教師のキャリアプランニング支援システム(教員と校長の1on1対話支援ツール)」を全国に先駆けて新たに開発しました。本年度から稼働する全国教員研修プラットフォーム(Plant)とワンストップで運用でき、香川県内はもとより全国で展開されている研修なども選択できるようになっています。

日本初!ギフテッド教育に関する 国際会議を香川大学で開催



8月17日~20日、ギフテッド教育に関する国際会議APCG(Asia-Pacific Conference on Giftedness)2024「アジア太平洋ギフテッド教育研究大会」が開催され、27の国と地域から研究者や教員が参加しました。APCGは、アジア太平洋地域の才能ある子どもたちの潜在能力を引き出し、育成することを目的に、隔年アジア各国で開催される英才教育の国際研究大会です。初めての日本開催となる記念すべき大会で、こどもへの理解を深め、最新の知見を学べる有意義な時間となりました。

吉田秀典副学長が「令和6年度防災 功労者内閣総理大臣表彰」を受賞



吉田秀典副学長(危機管理・教員評価・学術・特命担当)が「令和6年度防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞し、内閣総理大臣より表彰されました。吉田副学長は、平成29年10月から現在までの7年間、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長として地域の防災・減災・危機管理に係る教育、研究、地域連携の発展ならびに啓発に尽力しました。この功績が高く評価され、受賞となりました。

香川大学が「NIKKEIブルーオーシャン 大賞」生物多様性部門賞を受賞



本学と日本政策投資銀行、庵治漁業協同組合との連携事業「金融×科学で「海」を「資本」に~ブルーカーボンによる瀬戸内海復権」が、アートの要素を組み合わせた瀬戸内海地域の復権を目指す象徴的・意欲的な取り組みとして高く評価され、「NIKKEIブルーオーシャン大賞」生物多様性部門部門賞を受賞しました。「NIKKEIブルーオーシャン大賞」とは、日本経済新聞社グループが主催し、海洋環境の保全や水産資源の正しい活用に向けて、意欲的に取り組む企業、自治体、NPO・NGO等を表彰するものです。

本学学生(個人1名・団体2つ)が青少年善行者として顕彰

6月5日、香川県社会福祉総合センターで令和6年度「みんなで子どもを育てる県民運動」推進大会が開催され、少年警察補導員として熱心にボランティア活動に取り組む法学部4年・若尾元さん、再犯防止を目的とした交流会や勉強会、啓発活動等を行うさぬき再犯防止プロジェクトPROS、科学体験教室や収穫体験教室、料理実習教室等のイベントを行う農学部学生ボランティアサークルASUSが青少年善行者として顕彰されました。



第10回 香川大学ホームカミングデー 10月25日(土)開催決定!

アートと科学を融合 新研究拠点「芸術未来研究場せとうち」を開設



芸術未来研究場
せとうち
香川大学
東京藝術大学



制作風景

8月9日、瀬戸内エリアの地域型研究拠点として、新たに完成した「芸術未来研究場せとうち」の開式を行いました。当施設は、文部科学省から「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の支援を受けて整備したものです。同施設を活用し、東京藝術大学と連携(地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS))して、アートと科学技術による「心の豊かさ」を根幹としたイノベーション創出と地域に根差した課題解決の広域展開により、瀬戸内の様々な課題解決に取り組みます。



浜辺でのフィールドワーク

叙勲受章者等

令和6年春の叙勲(瑞宝中綬章)

一井 眞比古 名誉教授
(元香川大学学長)
岡部 昭延 名誉教授
(元香川大学医学部長)
小野原 信善 名誉教授
(元香川大学教育学部教授)

令和6年秋の叙勲(瑞宝中綬章)

實成 文彦 名誉教授
(元香川大学医学部教授)

採択

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)

「橋渡し研究プログラム」に2件採択
1 根治切除不能腎細胞癌に対する希少糖D-alloseを用いた新規治療法の開発
2 粘膜炎再生に最適化した生体吸収性組織再生デバイスの開発

令和6年度大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)に採択

JST次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)~博士後期課程学生の挑戦を支援する~に採択

協定締結

● 日本政策投資銀行との連携協定締結~カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブ社会の実現に向けて~

● 香川大学大学院地域マネジメント研究所と株式会社フューバルとの間で包括連携協定を締結

● 岡山大学、鳥根大学、香川大学、鳥取大学の4大学医学部が臨床実習教育の協力に関する協定を締結~多様な地域医療ニーズに対応できる医師育成を目指して~

● 香川大学とJICA四国との「JICA海外協力隊」を派遣する事業に関する覚書を締結

お友達追加、フォロー、チャンネル登録してね!
香川大学の最新情報をSNSで発信しています



香川大学支援基金

香川大学支援基金では、皆様からいただいたご寄付を、香川大学が取り組むデザイン思考能力・リスクマネジメント能力を有するイノベーション人材を育成するための教育施設・学修環境の整備を進めており、基金の充実が必要となっております。つきましては、教育・研究・社会貢献への取組、人材育成の取組、取り巻く状況等をご理解いただき、何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

詳しくは香川大学支援基金ホームページ

<https://www.kagawa-u.ac.jp/kikin/>



ご寄付の方法が選べます

■ クレジットカードや振込用紙など寄付方法をお選びいただけます。
ご利用いただけるクレジットカードの種類は支援基金のホームページをご覧ください。

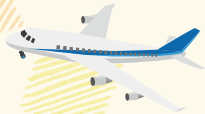
香川大学から感謝状へ

ご寄付いただいた方全員

ご了成を得て、ご芳名を本学ホームページ等に掲載いたします。

個人10万円以上、法人・団体30万円以上寄付された方

感謝状と記念品の贈呈/銘板による顕彰
ご芳名の銘板を学内に掲示し、末永く顕彰いたします。
※ご支援いただいた方は原則し便通措置が受けられます。



令和
6年度

香川大学校友会支援事業 (国際交流関係)に参加した

6名の

世界のことをより深く知りたい・学びたい! 校友会では、そんな思いに応えるべく

台湾

教育学部4年 谷川 大介



私は9月20日から29日の期間で台湾へ行き、台北市にある台北日本人学校の中学部で1週間の教育実習をさせていただきました。現在、日本の学校には様々な背景や価値観を抱える子供たちが在籍しており、教員になる上でその多様さを知っておきたいという気持ちで実習に臨みました。日本人学校には、様々な背景を持つ子どもたちがいることを多くの場面で感じました。日本語を話すことが苦手な生徒や、中国語と日本語を使いこなしている生徒。数か月前まで日本に住んでいた生徒もいれば、一度も日本に住んだことのない生徒もいました。また、両親とも台湾の人という生徒もいました。そのため、教室には多様な価値観を認め合える雰囲気が醸成されていると実感し、自分自身が教員となつた際には、そのような風土を作れるようにしたいという目標も生まれました。また、日本ではない場所で日本と同じような教育をするには、苦労もたくさんあることも実感しました。道具が揃っていないかったり、学習用語がうまく伝わらなかったりなど、教育をする上で様々な工夫が必要となることを痛感しました。しかし、実際にその環境で教えている日本人学校の先生方は、子どもたちが楽しく学べるように様々な工夫をされていることも分かりました。このような経験を通して、自分の将来の目指したい姿を描くことができたと、様々な考え方などに触れ、自身を成長させることができました。短い期間ではありましたが、大学や普通の生活では得ることのできない知識や体験を重ねることができ、自分の将来につながる大切な時間となりました。

私は、昨夏8月19日から9月12日までの期間ブルネイ・ダルサラーム大学のグローバルディスカバリープログラム(GDP)に参加させていただきました。研修中には、多くのブルネイの多様な文化に浸ることができ、グローバルな学生としてユニークな視点を持つというGDPの目的を達成できたと感じました。

また、グローバルな視点から日本を観察したり、イスラム文化やマレー文化を学んだりして、新しい視点や価値観を得られたと感じ、自分自身の目的であった、今までは違った新しい視点で物事を見て、考えられる人間になるという目的が達成できたと感じます。

英語に関しては、留学中は、単語がうまく出てこなかったり、発音が悪く伝わらなかったりと、たくさん苦労しましたが、自分の英会話力が何が足りないのかを実感しましたし、現地の学生たちとたくさん交流させていただいて、初めて外国の友達もできたので、英語の勉強によりいっそう力を入れて頑張って、友達と流暢に会話できるようにしたいと思います。最高に楽しい思い出ばかりで、参加して本当に良かったと思います。

これからはこの経験を活かして、自分からどんどんアピールして失敗してもいいから、様々なことに挑戦していける人間になりたいと考えました。



ブルネイ・ダルサラーム

法学部2年 尾崎 弘尚



オーストラリア

経済学部2年 緒方 彩七



今回の研修で、初めて海外に出て、母国語ではコミュニケーションを取れないという環境で5週間過ごしてきましたが、私自身一番変わったことは「英語を話す自信がついた」ということです。どれだけ文法が間違っていたとしても、適切な表現ができていなかったとしても、コミュニケーションツールとして自信を持って話すことが大事だということに気づきました。そのためこれから先も、恐れずに英語を話そうと思います。また毎日英語に触れて、今後も楽しみながら英語を学んでいきたいです。今回の研修では、英語の学習だけではなく世界の情勢や現状についても非常に考えさせられるものとなりました。今世界では何が起きているのか、人々がどのような暮らしをしているのか、価値観は違うのか、雰囲気はどうなのか、今回の研修で感じたことを全て忘れずに今後の目標にしていきたいです。とりえず挑戦して行動に移すことが大事だとよく言われますが、本当にそのとおりであると思います。一歩踏み出したから得られたことはとても大きいです。

例えば英語を話す際の自信があったり、向こうで生活するからその気づきがあったりや習得することができました。また同じ目標、考えを持った仲間に出会えたこと、もう一度会いたいと思えるような素敵な人々に出会えたことが何よりうれしいです。困難なときもあるかもしれませんが、それも留学の醍醐味だと思って全力で楽しんでいただきたいです。私自身も、迷ったときは迷わず、成長できる喜びと捉えていました。後悔しないために、迷った場合は踏み出してみると、思っている以上のことが得られるかもしれないです。

学生の留学体験記

海外留学の機会を大学を通じて支援しています。皆さんも参加してみませんか?



インドネシア

医学部3年 三好 なつ美



私は7月22日から8月6日の約2週間、インドネシアにあるUniversitas Muhammadiyah Yogyakartaで開催されたInternational Tropical Medicine Summer Schoolに参加してきました。Muhammadiyah Medical Students' Activitiesという学生団体によって運営されており、今年度は新型コロナウイルス流行後初の対面開催がなされました。

参加者は私を含め7名で、フィリピン、タイ、中国から来た医学生や現役の医師、高校生がいました。熱帯医学の中でも特に結核、マラリア、デング熱の3つのテーマについて深く学ぶプログラムとなっており、座学のみならず医療面接や身体診察の手法などについても教わりました。放課後や休日には、スタッフの学生たちが素敵なレストランや博物館などの観光スポットに連れ出してくれたので、適度に息抜きをしながら勉強に励むことができました。

参加者やスタッフとの会話はもちろん、講義や試験もすべて英語で行われたため、語学力に自信のない私ににとっては非常に大変な日々でしたが、優しい仲間にも恵まれても充実したインドネシア生活を送ることができました。「思い通りいかないことに対してどう対処するか」という、人生において重要な課題に向き合うことができたことが、何よりも大きな収穫であったと思います。



タイ

創発科学研究科博士前期課程1年 紀 飛悠太

第3回香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学合同シンポジウムに参加し、多角的な視点を広げる貴重な経験を得ました。このシンポジウムでは、将来の人口増加に対応する農業技術や持続可能なエネルギー開発、気候変動対策といった幅広い分野の研究展示や発表が行われ、最新の学術的・技術的動向を知るとともに、持続可能な社会の構築に向けた多様な取り組みを学ぶ機会となりました。

また、私はこのシンポジウムで初めて自身の研究を英語で発表するという貴重な体験をしました。研究内容を整理し、分かりやすく伝える準備を進める中で、プレゼンテーションスキルの向上を実感するとともに、発表当日の質疑応答では研究への新たな視点を得ることができました。この経験を通して、英語でのスピーキングやリスニング能力が向上し、国際的な場でのコミュニケーションに対する自信も高まりました。

さらに、チェンマイ大学での活動では、多くの専門分野の研究者や教授陣と直接交流する機会にも恵まれました。これにより、自分の専攻分野以外の知識を深めるとともに、新たな学問的興味を喚起される貴重な場となりました。同大学には、起業家や研究者向けの先進的な施設が整備されており、その充実した設備や研究環境に大きな刺激を受けました。特に、学術研究と社会実装を結びつける取り組みには深く感銘を受け、自身の研究が社会にどのように役立つかについてより深く考えるきっかけとなりました。



タイ、ベトナム

農学部2年 難波江 実優



私は大学2年生の夏休みの期間を利用して、8月26日から9月27日までタイとベトナムのハノイ工科大学の生物・食品工学部で、1か月間の海外研修を行いました。タイではシンポジウムに参加し、タイの観光地に行ったり、アサンブロン大学の見学をしたりしました。ベトナムでは2人1組になり、研究室に所属し、約2週間研究を行いながら、キャッサバ工場の見学や観光地にも行き、楽しみながらもたくさんの学びを得ることができました。私がこの経験を通して得た知識は、自分自身の努力次第で大きく成長できるということです。私は自分自身を成長させるためにはもっと自分から積極的に動かなければならなかったと感じています。私は自分の英語力に自信がなく、内気な性格もあり、最初はまったくコミュニケーションをとることができませんでした。しかし、自分の英語で何とかコミュニケーションをとっていくうちに、英語で話してコミュニケーションをとることの楽しさが芽生えました。それと同時に自分の気持ちをうまく伝えられない悔しさも感じていました。ずっと英語を使わなければならない環境にいたため、日本で勉強するよりも飛躍的に英語力は成長しました。

この留学に行ったことで、私は自分自身ももっと努力しなければならないことに気づかされました。そして、新たな目標も生まれました。それはもう一度海外留学に挑戦することです。前回の反省を生かして、より積極的にコミュニケーションをとっていき、英語力の向上とともに、柔軟な対応力などを身に付けていきたいです。このような考えはこれまでの私の中にはありませんでした。このように、自分の課題を見つけ、新たな目標を見つめられたことがこの留学での一番の成長だと感じています。



直島地域活性化プロジェクト

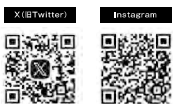


英BBC放送「2025年に旅行したい場所25カ所」に、直島が日本国内から唯一選出!

直島で「ぐう」然の出会いを

私たち直島地域活性化プロジェクトは、直島を拠点に活動している学生プロジェクトです。2005年に発足した本プロジェクトは、今年で20周年を迎えます。私たちのメインの活動は、直島でのカフェ経営です。毎週末にメンバーが交代で直島へ行き、「和cafeぐう」の営業を行っています。料理の仕込みや提供、お金の管理や新メニューの開発など、すべて学生が主体となって活動しています。カフェ経営の他にも、直島の小学生を対象にした防災教育や、直島を訪れた観光客に向けた観光ガイドなどを行っています。また、今年度からの新たな取り組みとして、直島の夜間の観光を盛り上げるため、竹あかりのライトアップ展示を実施しました。直島町役場や学生プロジェクト「たどつまちLabo」のご協力のもと、島内の竹を伐採して竹あかりを作成・展示し、直島の夜を照らしました。初めての取り組みでしたが、島民や観光客などたくさんの方が展示を見に来てくれました。

SNSでも情報発信を行っているので、ぜひご覧ください!!



代表の則包です。今年度は瀬戸内国際芸術祭2025が開催され、私たち直島地域活性化プロジェクトも創立20周年を迎えます。直島にお越しの際は、ぜひ「和cafeぐう」にお立ち寄りください!



CIRCLE & CLUB

サークル部活動通信

香川大学農学部 学生ボランティアサークル ASUS



ASUSメンバーでイチゴ狩りに行った際の集合写真

香川大学農学部の学生サークルASUS (Aggie Student Union Service, エーサス)は、2013年に設立された農学部公認のボランティアサークルです。主な活動内容として、地域の小学生を対象にした科学体験教室の開講、三木町のお祭り「まんてん」への参加など、年間を通して地域に根ざした様々な活動を行っています。また、農学部の「オープンキャンパス」や農学部で開かれるイベントの一つである「収穫祭」のサポートなども行っています。このような活動が認められ、2024年は「青少年善行者」として顕彰され、「農学部特別賞」も受賞しました。さらに、現在は希少糖を使用した食品開発プロジェクトを進めており、開発した商品の販売を目指して日々試行錯誤しています。これからは地域との連携や学内活動を通して、皆様に誇れるサークルを目指していきます。ASUSは、地域の幅広い世代の方との関わりや新しいことへの挑戦が多く、自分たちの成長を感じられるサークルです。興味のある方はぜひお気軽にご連絡ください。



オープンキャンパスのレポート



池田豊人香川県知事より青少年善行者として顕彰



まんてんで願でカボチャのバスケット制作



科学体験教室にて「水中シャボン玉」を制作



SNSでも情報発信を行っているので、ぜひご覧ください!!



部長の宮本です。ASUSは大学内外どちらの活動も活発に行いつつ、部員間の交流も大切にしているサークルです。様々な活動を企画するのは大変なことです。参加者の方楽しんでいただけるように日々頑張っています。私たちと一緒に色々な企画にチャレンジしてみませんか。

KADAI project

～プロジェクト最前線～
学生たちの情熱が地域を灯す!

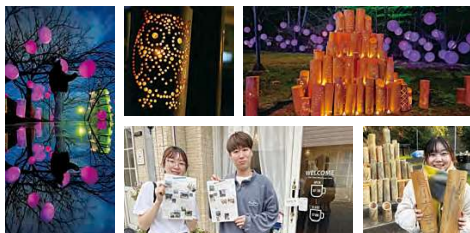
香大だからこそできる活動を紹介します!

多度津町の魅力を発信し、町の賑わいを創出!!

私たち香川大学たどつまちLaboは、香川県多度津町をフィールドに、多度津町の賑わい創出を目指して活動しています。2021年10月に発足し、現在計37名の学生が所属しています。主な活動として、2022年から毎年2回「竹あかり～たどつちの灯(ひかり)～」というイベントをまちのシンボルである桜川の脇道にて主催しています。また、そこで使用する竹あかりを作成するため、多度津町内外の方を対象に、多度津町内の放置竹林を使った「竹あかりづくりワークショップ」を開催しています。作成した竹あかりは多度津町内外で開催される他のイベントでも展示しています。さらに、別の活動として、多度津町の歴史的な街並みやゆったりとした雰囲気という地域の魅力を伝えるため、多度津町を訪れた方が一人でもまちあるきができるようなリーフレットを作成しています。今後は作成したリーフレットを使ってまちあるきツアーを行う予定です。



たどつまちLabo



代表の藤谷です。多度津町本通地区の「重要伝統的建造物群保存地区」選定に向け、引き続き多度津町全体の情報発信や魅力向上に取り組んでいきます。



SNSでも情報発信を行っているので、ぜひご覧ください!!



SNSでも情報発信を行っているので、ぜひご覧ください!!

地域に根差した防犯ボランティア活動

香川大学防犯パトロール隊は、大学生による防犯ボランティアサークルとして、ホットスポットパトロールや防犯教室などの各種イベントを通して地域の防犯に貢献する活動を行っています。ホットスポットパトロールとは、月3～5回を1時間ほど、香川大学周辺の危険個所(ホットスポット)を巡回(パトロール)するということです。犯罪機会論に基づき危険とされる「見えにくい、入りやすい」場所を巡回することで、犯罪者にとって活動しやすく、目に付かない(=見えにくい)場所にも入っていき、人目があることをアピールして犯行に及ぶ機会を失わせることを目的としています。また最近では、附属高松中学校、白鳥小学校で防犯教室を開催したり、仏生山大名行列での地域安全フェア、丸亀町三町ドームでの防犯キャンペーンに参加したりしました。このように、普段の活動で培った防犯に関する知識や情報を発信する活動にも力を入れています。

隊長の富永と安川です。私たち香防隊は、防犯パトロールや防犯教室を中心に防犯活動に取り組んでいます。これからも地域の安心・安全に少しでも貢献できるように隊員一同、活動に励んでいます。



香川大学 防犯パトロール隊



みいまい地図

ホットスポットパトロール



丸亀町三町ドームでの防犯キャンペーン

附属高松小学校 防犯教室

防犯教室の様子

STUDENT & GROUP

気になる学生活動

就職活動サポーター BEST



私たち香川大学就職活動サポーターBESTは、就職活動に悩んでいる学生をサポートする活動をしているチームです。私たち自身が実際に体験したことをもとに相談のったり、具体的なアドバイスをしています。メンバーそれぞれ様々な就職活動を経験しているので、公務員、民間企業志望問わず、なんでも相談できるところが私たちの強みであると思います。就職活動に困っていたら一人で悩まず、気軽に相談していただくと嬉しいです。

Question

- ①活動中で特につらかったときはどんなときでしたか、また、それをどのように乗り越えてきましたか。
- ②就職活動に向けてどのような準備をしましたか、また実際、特に役に立ったことは何ですか。
- ③後輩の役に立つような情報やこれから就職活動をする後輩の学生さんへのメッセージをお願いします。
- ④キャリア支援センターの活用、設立ツール、グッズなどがあれば教えてください。

①周りが内定をもらっているのに自分だけ内定がなかったときです。しかし、就職活動を行っている同期に「できる、頑張ろう」と声をかけてもらったことで自分らしく、自分のペースで頑張ろうと思えました。就職活動は、自分ひとりでやるのではなく、たくさんの人に頼りながら協力することが大切だと実感しました。

②実際に就職活動を経験した先輩に話を聞いたり、就職活動をしている友人と情報交換をしたりしました。エントリーシートを添削してもらったり、面接練習をしてもらったりしました。インターネットでもたくさん調べましたが、やはり実際の話やアドバイスを聞いてリアルなイメージをもつことができました。

③内定を早くもらっている人を見て焦らなくても大丈夫です。はじめは何をすれば良いかわからないのは全員一緒です。なんとなく始めれば分かってきます。周りの友人や先輩、キャリアセンターなどたくさんの人に頼って就職活動をしてください。そうすれば必ず納得のいく就職活動ができると思います。頑張ってください!



キャリア支援センター

④グループディスカッションの練習。

「就活って何から始めれば？」そんなあなたに学生サポーターがアドバイス!!



岩本 亜矢乃(農学部)・公務員系に内定

私は理科が好きであること、人のために働きたいという気持ちから公務員の研究職に就職しました。公務員試験の勉強は大学3年生の5月から始めました。学校の勉強や部活動に参加しており、勉強できる時間が限られていた中で隙間時間を見つけて、無理のない範囲で勉強していました。また、自己分析を入れ、自分の強みや大学生活での経験を振り返り、面接のときに何をアピールするのかが、伝えたいことは何か、紙に書きだしてまとめていました。

岩本さんの就職活動ヒストリー

1・2年次
2年生の時にどんな企業があるのか調べていました。また職業適性診断を受けて自分に合った職業は何か調べていました。学校生活を中心とした生活をしていました。

3年次
5月から公務員講座を受講し始め、朝学校に行く前の1時間、学校までの電車内、夜家に帰ってから寝るまでの数時間、勉強をしていました。秋にキャリア支援センターが開催している「うどん県」の自治体で働く大懇談会に参加しました。冬に、職場の人に実際に質問やお話ができるセミナーに参加しました。

4年次
公務員試験まで勉強をしていました。筆記試験後、次の面接まで自己分析をして紙に書きだしたものを見返して面接練習をしました。

山本 里緒奈(教育学部)・金融系に内定



私の就職活動は本当に手探りの状態から始まりました。もともと教員になろうと思っていたので就職活動に対する知識は全くありませんでした。また、教育学部ということもあり、民間の就職活動をしている友人があまりいませんでした。そのため、なにか始めれば良いのかわかりませんでした。それでも先輩の力を借りて、前年のエントリーシートをもらったり、面接練習をしたりしました。だんだんと就職活動をしている友人にも出会えました。途中挫折しそうになるときもありましたが、たくさんの人に支えてもらい就職活動を終えられました。

山本さんの就職活動ヒストリー

1・2年次
就職についてあまり考えておらず、何がしたいのかわからないままでした。

3年次
教育実習を経て、民間企業に就職したいと考えようになり、3年の11月から始めました。はじめは合同説明会に参加し、興味のある企業が見つければ、1dayインターンシップに参加していました。3年の3月から就職活動が解禁され、面接がスタートしました。

4年次
面接が進んでいき、何度も面接を受けました。5月頃には何社か内定をいただいていたので、その中から入社を決めて、就職活動を終了させました。

①公務員ということもあり、学校生活と勉強を両立することがつらかったです。試験も遅いため、周りの人たちが次々内定が決まってくる中、勉強することもつらかったです。自分は公務員になるんだ、やりたいものになるんだという強い気持ちのおかげでこの困難を乗り越えられたのだと思います。

②面接で自分を強くアピールしたいと思い、どくに自己分析の力を入れました。今までの大学生活を振り返り、紙にマインドマップのようなものを書いてそれぞれのつながりや内容を整理していました。

③説明会やインターンシップなどイベントに積極的に参加することをおすすめします。実際の現場の雰囲気を感じることができ、そこで働いている自分を想像することができ、就職活動への意欲も高まります。気になったイベントにはどんどん参加してみましょう。

④「うどん県」の自治体で働く大懇談会などのイベントは自分の視野を広げる良いきっかけだったと思います。



就活用冊子



マイBOX(オンライン就活用個室BOX)

DXラボ



香川大学では、2021年7月にDX推進戦略「デジタルONE戦略」を策定しました。その一環として、学生を中心とするDX推進チーム「DXラボ」を組織し、学生・教員・職員の協働により、学内業務の改善を目指した業務システムの内製開発などを行っています。



現在、DXラボには大学院創発科学研究所の大学院生5名と創造工学部の学生4名が所属しています。

DXラボでは、業務システム内製開発だけでなく、多彩な活動を展開しています。たとえば、業務改善のアイデアを創出する「業務改善アイデアソン」、ユーザーの視点から業務上の課題を調査する「業務UX調査」、業務システムで得られたデータを分析する「業務データ分析」などを。さらに、教職員自身が業務システム開発のスキルを習得することを目指し、「システム開発/データ分析ハンズオン」を開催しています。このハンズオンには学内外から参加者が集まり、2024年12月現在で延べ1,571人が受講しています。

DXラボの活動は、まるで企業のインターンシップのように、学生が実際のシステム開発を経験できる場となっています。香川大学の職員が実際に使うシステムを開発し、ユーザー(職員)とともに要件定義を行い、運用保守や改修もDXラボの学生スタッフが担います。これにより、通常は企業のインターンシ



システム紹介 仮説検証型アジャイル開発で、ユーザーが本当に必要な情報システムを自分たちで開発



就業申請・届出システム



電子決裁システム「KadaSign/カダサイン」



落とし物管理システム「KadaMikke/カダミッケ」

香川大学のDXは私たちに任せろ!
~学生中心のDX推進チーム「DXラボ」~

プでしか得られない経験が大学内で得ることができ、開発体験を通じてエンジニアとして必要なスキルを身につけられる場を提供しています。

さらに、他大学に対しても、DXラボが蓄積したノウハウをオープンに公開しています。大学間でDX推進の取り組みやノウハウを共有することが、日本全体のDX推進にとって重要であると考えています。

2024年には、KadaDXシンポジウム2024でのポスターセッション発表や、全国の大学情報系センターの大会である大学ICT推進協議会でのシステム開発ハンズオン実施など、対外的な活動を多数展開しました。さらに、DXラボの活動に感化されて組織された室蘭工業大学の学生とオンラインで意見交換を行うなど、積極的に交流を深めています。

また、DXラボの学生スタッフが開発した落とし物管理システム「KadaMikke」は、香川大学の各キャンパスで利用されているだけでなく、大阪教育大学、島根大学、筑波大学などでも展開され、他大学に認められるほどDX推進に積極的に取り組んでいます。

今後も学内におけるDX推進にとどまらず、日本全体のDX推進に貢献できるよう研鑽に努めてまいります。DXラボの今後の活動にご期待ください!

DXラボ代表 前田 悠作



日笠 綾音

Ayane Hikasa
経済学部4年

環境問題と向き合い さまざまな活動の輪を広げる

高校時代に地域の衰退や伝統の担い手不足を実感し、「かがわ政策プランコンテスト」への出場やボランティア活動に参加しました。その中で、地元で地域活性化を学び、実際に取り組んでいきたいと考え香川大学経済学部に進学しました。

入学後はいろいろなことに興味が広がり、学生ESDプロジェクトSteeepの活動や直島のカフェ運営プロジェクトにも参加するなど、多くのことに挑戦してきました。2年からはSteeepの幹部となり、活動をもっと広げていきたいという思いから専念することになりました。SDGsや環境問題を広く啓発するプロジェクトで、食品ロス、海ごみ、衣料品ロスなど、活動軸は8つとなり、同じ思いを持った仲間も増えていきます。私が加入してからスタートしたフードドライブ活動は商店街から始めてコミュニティセンターや県内スーパー、香川県庁や高松市役所と共催でフードドライブウイークを実施し、自分たちの団体にとどまらず、地域とともに実行していけることにやりがいを感じています。また、メンバーは香川県地球温暖化防止活動推進員に任命されていますので、それぞれが責任を持って活動しています。

社会人としての自覚を持って 大学で学んだことを生かしていきたい

Steeepの代表をしていたこともあり、プロジェクトの先生から高松市総合計画審議会委員にご推挙いただき、若者からの意見を提言させていただいたこともよい経験になりました。またイベントでパネリストとして登壇したり、メディアにも取り上げていただいたことで、自分たちの活動を発信するとともに、幅広い世代の方々と交流することができました。

学業やSteeepでの経験、ITサポート、ファイナンシャルプランナー、eco検定などにも挑戦し、充実した4年間を過ごしました。卒業後は大好きな地元で大学で学んだことを活かしていきたいです。Steeepの活動では地域の方々にご支援ご協力をいただいたので、今度は参加者として地域活動に携わっていきたいと考えています。



かがわサテライトワード2023



Steepを軸に充実した4年間でした

大好きな香川での大学生活



高松市役所でのフードドライブ活動参加の様子



電機広場ほっかいどうでの啓発活動の様子

藤澤 暉

Hikaru Fujisawa
教育学部4年（合同会社Biryoku代表）

1年次から“やろう”と決めていた インターンシップ休学、起業、留学を経験

小学校から教員を目指していたので、地元でもある香川大学教育学部へ。推薦入試合格発表3日前に起業部が立ち上がり、まだ合格もしていないのに入部を希望した初期メンバーです。

コロナ禍初期の2020年5月、1年次で全国の大学生を1万人集めるイベントに応募し香川県代表になりました。首都圏、関西圏などからの参加者は4年生中心で、バイタリティあふれるおもしろい人ばかり。彼らに共通していたのが「休学してインターン、留学、起業」だったので、自分も全部やろうと決めました。

2年次を終えて1年間休学、瀬戸内国際芸術祭期間中の海上タクシー会社、被災地の学習支援を行う岩手県のNPO法人で半年ずつインターンを経験。インターンを終えて復学すると同級生が就職活動をしていて「資格・留学・インターン経験」がないとエントリーシートが埋まらないと嘆く姿を見て「インターンシップなら役立てるかもしれない」という想いで合同会社Biryokuを立ち上げました。

4年間、やりきったと思っています あと1年は大学生でしかできないことを存分に!

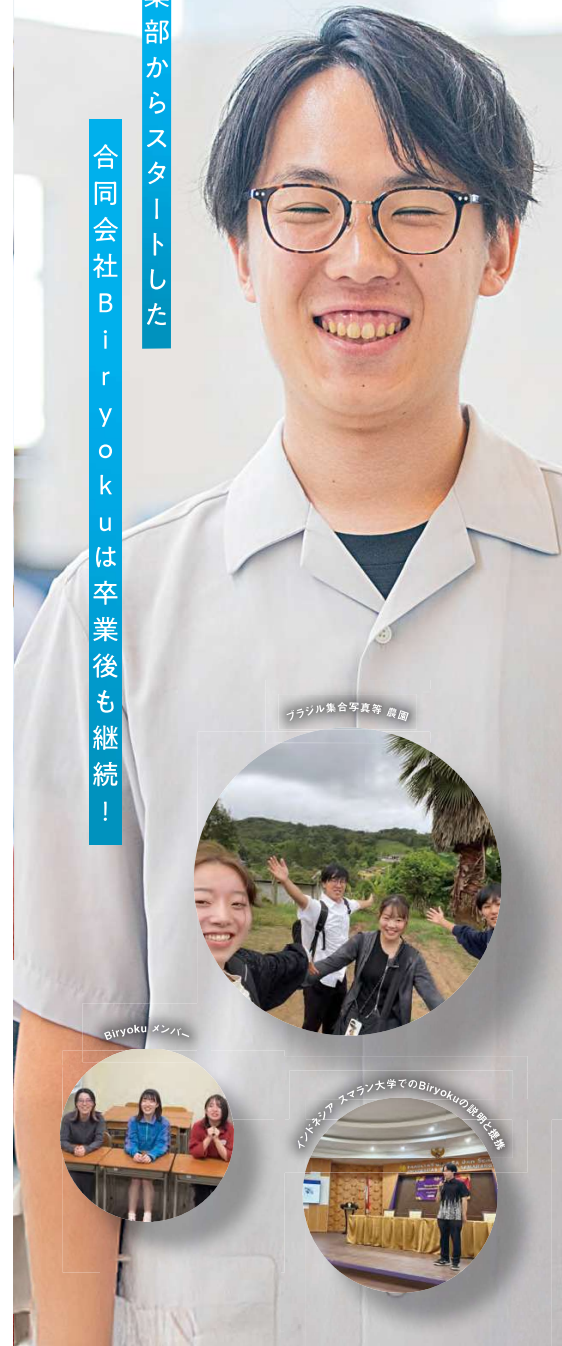
合同会社Biryokuの事業内容は「家庭教師マッチング事業」「推薦入試特化型サポート」「インターンシップ事業」などで、イベント企画や交流会などを行っています。起業部のメンバー4名が中心となり、プロジェクトごとに他メンバーが参加したりサポートしてくれたり、フレキシブルに活動しています。

起業部での活動やインターンシップ、合同会社Biryokuの運営など、やりたかったことをやりきった4年間でした。今は2度目の休学中でインドネシアに短期留学*しています。1年次に目標としていた「インターンシップ休学、起業、留学」はコンプリートできました。あと1年、大学生でしかできないこと...たとえば、助成金や補助金の申請、起業部のさらなる周知など、大学生活の集大成としていきたいですね。卒業後も合同会社Biryokuは続けていきたいですが、大学時代はあまりにもいろいろなことをやってきたので、これから10年くらいは一つか二つ、エネルギーを注げることに集中していきたいと思っています。就職するにしても、事業をするにしても「教育」には関わってほしいです。何をしても「教育」には繋がるとも思っています。そして、社会経験をしっかり積み、キャリアの最後の方には教師になりたい方もいません。



起業部 統括代表

*2025年1月、インドネシア滞在中にリモートにて取材



合同会社Biryokuは卒業後も継続!

起業部からスタートした



ラジカル集合写真展 展覧



Biryoku メンバー



インドネシアスマラン大学でのBiryokuの説明と説明

多度津町立多度津中学校
教諭(数学)

豊嶋 美佐

Misa Toyoshima
教育学部 2023年卒業

大人への階段を登っている中学生には
自分で考え、自分で行動できる人になってほしい

中学校教諭になって2年目の今は1年生の担任、「数学」教師、ソフトテニス部の顧問、そして広報常任委員会でも中心になってやっています。いろいろな仕事を任されて大変なこともあります。子どもたちと一緒に笑ったり、成長の様子を見ているととても癒されます。

私は小学校の時から先生に恵まれていて、特に中学校の時には「どの先生も楽しそう」だし、先生同士も仲がよさそうで「教師の道しかない」という想いを抱き高校に進み、香川大学教育学部に入りました。中学時代、「数学」が苦手な同級生に教えてあげた時、「わかった」って言う瞬間がうれしくて…。高校になって「数学」も難しくなりましたが、先生に質問するとわかるまで教えてくださり、「数学」のおもしろさを感じられるようになりました。今の生徒たちにもただ公式を覚えるだけでなく、しっかり理解して学びを深めてほしいです。特に大人になっていく過程の中学生には、何でも質問して答えを得るのではなく「自分で考え、自分で行動できる人になってほしい」。そのように導いていくのが、これからの私の課題でもあります。

コロナ禍での大学時代
あの経験があったからこそ今があります

大学時代はコロナ禍で、授業も実習もオンラインという状況でした。本来、3年生で3週間行われる教育実習は、附属中学校に1週間だけ、授業も1回しか経験できませんでした。危機感を感じていた同級生同士で採用試験前に模擬授業や面接練習など、それは熱心にやりました。また、リモート授業を受けた経験は、積極的にICTを進めている多度津中学校では大いに活かされ、タブレット端末での授業もスムーズにできています。大学ではバドミントン部で会計をしていたのですが、その経験によってソフトテニス部が遠征する際のバスやホテルの手配も難なく行えるようになっていました。また、「社員ですか!」っていうくらいに忙しい飲食店でアルバイトをした経験から、同時に何役もやっていくスキルを磨けたと思っています。

教師は楽しくやりのある仕事です。目指すは、教室にいる全員が「わかった」と納得できる楽しい授業をすること。学力に個人差のある公立中学校では難しいですが、いつかは叶えたいと思っている大きな目標です。



研修の様子



教室の全員が「わかった」と思える

楽しい授業をするのが目標です



授業の様子



登壇の様子

高松地方検察庁
検察事務官

岩下 力矢

Rikiya Iwashita
法学部 2024年卒業

刑事訴訟法のゼミをきっかけに
検察庁のイベントに参加

大学3年の終盤、ゼミの関係で検察庁のイベントに参加する機会に恵まれ、弁解録取の体験をしたことで検察事務官に興味を持つようになりました。公務員志望でしたし、刑事訴訟法のゼミでの学びも役立つと考え、高松地方検察庁で検察事務官を目指すことに…。法学部で専門的な勉強を1~10まで学んできたわけではありませんが、法学部でなくても検察事務官にはなれます。また採用後はしっかりとした初等科研修も受けることができます。しかし、法律を学んできたからこそ日々の法律用語の嵐にも抵抗なく、法律の現場に携わることができていると感じます。

検察庁の中にもさまざまな部署がありますが、私は現在、検察官室の事件令状係で働いています。警察や捜査機関の方の書類や証拠物の内容を受理して確認しています。また、逮捕状や勾留状、捜索差押許可状などの令状関連の仕事をしています。

いつかは捜査に関わる立会事務官を経験したい

私は高松地方検察庁所属なので、他府県への異動はほとんどないのですが、早い段階で人事、会計、捜査など、いろいろな部署を経験することになります。いつかは検察官とペアになって捜査に当たる立会事務官の任を得て、現場に関わっていきたくて、頼りにされる事務官になりたいと思います。もちろん検察官にしかできない仕事もあるのですが、意見交換する機会もありますし、一つひとつの事案に対して根気よくアプローチできるように、経験と知識を積み重ね、自分なりの答えを導き出せるように勉強していきたいですね。

たとえば、新聞に載るなど、ニュースになっている事件の裏側を垣間見られるのは検察庁の職員ならではの、ちょっとした醍醐味でもあります。ただ、何よりも大切に考えているのは治安を守る仕事であり、みなさんが安心して暮らせる社会を守っていくことが第一義と考えています。休日にはバイクでのツーリングや旅行に出かけることもありますが、常に法律を守る立場の人間ということを忘れず行動するように心がけています。



楽しんで乗った徳島ツーリング!



知識と経験を積み重ね

信頼される検察事務官に



職員の紅葉に心奪われる...

毎日通う庁舎です!

回廊でコナンの聖地巡礼!

事件

NTN株式会社
未来創造開発本部
要素技術開発部 ライフサイエンスG

森吉 真理子

Mariko Moriyoshi
工学部(現:創造工学部) 2018年卒業

ベアリング企業であるNTN株式会社に ライフサイエンス分野を確立していく

機械メーカーである弊社が販売している微細塗布装置を、ライフサイエンス分野で活かせる用途探索を担当。少量のモノを正確に塗布できる装置の設計・開発に携わっております。ベアリングのイメージが強いNTN株式会社においてはこれからの分野ですが、新しいことに挑戦するのは大好きなので、やりがいを持って取り組んでいます。途中で頓挫したり、失敗することもあります。それも次なるテーマの糧になりますし、将来的に社会に出ていくことを考えるとモチベーションも上がります。

就職活動をする過程で研究・開発職を目指すには学部卒では難しいと思いましたが、NTN株式会社ではやる気があればチャレンジできることを知り入社を決めました。また、福利厚生が充実していたことも大きなポイントでした。入社後は先輩が新入社員をサポートするメンター制度のおかげで、仕事にも静岡という地にも早く慣れることができました。職場の雰囲気もよく、上司にも恵まれ、働きやすい環境で充実した毎日です。

“コツコツと研究を続ける”大学で培った 持続力や忍耐力が活かされています

大学時代は1年~3年の前半まではサークル「軽音Bee」での活動、数多くのアルバイト、瀬戸内国際芸術祭でのボランティアなど、“できることはすべてやってみよう”を座右の銘にさまざまなことにチャレンジしてきました。3年後半~4年にかけてはコツコツと研究に没頭してきたことで持続力や忍耐力が養われ、今の研究・開発の仕事に役立っていると感じています。

接客業のアルバイトなどを経験したことで初対面の方と話す苦手意識はなく、プレゼンテーションも得意な方です。入社以来、香川大学のリクルーターもやっているので学生さんの前で話したり、相談に乗ったり…毎年、母校を訪れることができています。

入社してからも“何でもやろう”精神は健在で、キャンプやプロバスケットボール観戦など、ONとOFFをしっかりと分けて趣味の幅も膨らみました。しかし、失敗を怖れず突き進めるのは学生時代だけです。今しかできないこと、新しいことにどんどん挑戦して、自分の可能性を広げていってほしいですね。



趣味のキャンプ



大学時代からの座右の銘を胸に挑戦を続ける

『できることはすべてやってみよう!』



細胞培養操作



顕微鏡を用いた観察



スタジオツアー東京に行った時

株式会社地域創生Coデザイン研究所
コンサルティング事業部
研究主任 リードCoクリエイター

富田 祐策

Yusaku Tomita
経済学部 2016年卒業

NTTのDATAやDXを活用して 観光振興で地域を元気に!

経済学部の地域社会システム学科では国際交流と地域創生を学びました。授業でも地域に入り込んでフィールドワークを行ったり、直島カフェプロジェクトやNPO法人などでさまざまな社会人の方々と交流した経験が今の仕事にも役立っています。

NTT西日本に就職を決めたのも、地域活性化とITを融合させて独自の価値を提供しているという話を先輩社員から聞いたからです。入社後6年間は、システムエンジニアとしてシステム開発に携わっていましたが、NTT西日本から株式会社地域創生Coデザイン研究所がスピノフすることを知り、自ら志願して出向。弊所は「地域創生をいかに地域で実現するか」をミッションに掲げており、その中でも観光振興で地域を元気にしていくための支援をしています。NTT独自のDXやDATAを活用し、FACTに基づいて施策を考え、効果検証しながら観光の活性化に取り組んでいます。自治体や観光協会、地域の事業者さまとともに、相手の立場になって課題を克服していく…コンサルタントとして口だけでなく、しっかり手を動かしながら地域と並走することを大切に仕事を進めています。



富田の地域振興者さんとのイベント

今の経験をもとに 地域に貢献できる事業を興したい

私は弊所への出向をきっかけに大阪観光大学リカレント教育センターで学び直すことにしました。すでに大学を卒業してから6年が経っていましたし、熟意のある社会人の方も多く、とても刺激を受けると同時にネットワークも生まれました。そのご縁で、同校の講師として教壇に立ち、アイデアITカレッジ阿蘇で講演をさせていただいたりもしています。現在も関わっている広島県廿日市市の観光プロジェクトのケーススタディやシステムエンジニアとしての経験も共有でき、これからの観光事業の担い手の育成にも貢献していきたいと思っています。

現在31歳なので40歳までの今後の約10年間で、今の経験やスキルを活かして地域に貢献できる事業を興したいと考えています。その地域で雇用を生み、税収を上げて、活性化していく…これからの子どもたちが、100歳まで幸せに暮らせる地域を創ることが目標です。



大学で学んだ地域創生を
瀬戸内を舞台に実践する日々



大阪観光大学でのリカレントカリキュラム履修

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学

大阪観光大学



家族と水族館



QUINTBRIDGE内部でマスコット

医療法人正心会永井循環器内科医院
(公認心理師・臨床心理士)
香川県内の小・中学校(スクールカウンセラー)

生駒 未於

Mio Ikoma
医学系研究科臨床心理学専攻 2022年修了

青山学院大学での学びを 郷里でもある香川大学大学院でさらに深める

青山学院大学3年の時、以前から興味を持っていた日本老年臨床心理学に参加。その時に偶然、林智一先生とお話し、香川大学に国立大学医学部で初の臨床心理学科が開設されることを知りました。大学で心理学を学んでいたものの、大学院まで進む気はなかったのですが、この出会いに背中を押され、故郷でもある香川大学の修士課程への進学を決めました。国家資格である公認心理師の受験資格も得られる修士課程で、臨床心理士とのダブルライセンス取得を目標に勉学に励む日々。林ゼミに入り授業、研究、修士論文、メンタルフレンドのアルバイトなどの忙しい2年間を過ごしました。

大学院修了後、国家資格を取得 病院で高齢者、学校で小・中学生と向き合う

修了後1年間は、実習でお世話になった特別養護老人ホームで働きながら、資格取得に備えました。2年目からは公認心理師として週に3日、循環器内科の外来、入院病棟の患者さん、特に心臓リハビリテーションに取り組んでおられる方々のカウンセリング。主な所属としては、重度認知症患者デイケアが病院内にあり、そこで回想法という集団療法を担当したり、患者さんのお話を聴いたり、看護師さんや介護士さんと生活のケアをしたりしています。また、週に2日は教育委員会の会計年度任用職員として、小・中学校を訪問しています。児童、生徒、保護者の方との相談活動、先生方と情報共有しながら支援の仕方を考えていくコンサルテーション、お便りの発行などカウンセラーの認知度を高める取り組みも行っています。どちらも非常勤というスタイルなので自らスケジュール管理をしながら、高齢者と児童・生徒という幅広い年齢の人々とかかわっています。

公認心理師は国家資格となっているので、これからもっと必要とされるとは思いますが、医療介護分野での保険適用がないなど(一部除く)、仕組みが未成熟です。これからも研究を重ね、学会発表をしたり、論文にまとめたりして、積極的に成果を発信していくことで臨床心理の世界を広げるチャレンジを続けていきます。



循環器内科にて



高齢者心理を専門的に学ぶ

臨床心理の道を究めていく



矢と花海道旅行



実家近くのまんのう池にて



趣味のピアノ

松谷化学工業株式会社
サプライヤー管理課

藤田 修太郎

Shutaro Fujita
農学部 2020年卒業

就職活動のテーマでもあった 海外勤務を目指して知識を深めています

インターンシップや就職活動の面接でのアットホームな雰囲気に惹かれて入社を決めました。その印象は今も変わらずワークライフバランスが充実した居心地のよい職場環境です。

弊社は、原料でん粉を国内外のサプライヤーから購入、国内で加工して販売しております。入社してから原料購入業務を担当していましたが、昨年よりサプライヤー管理課に配属されました。トラブルやクレームが発生した際に調査・原因追及を行い、サプライヤーに改善策の検討を依頼。データを取り寄せたり、現地を訪れたりして改善策の有用性を検証します。製造設備や工程、品質に関する専門的な知識が必要な仕事なので、先輩方から指導を受けながら少しずつ知識を深めています。

大学時代に留学を経験した私は、「海外に行けるか?」というも就職活動のテーマの一つでした。現在、トラブル発生時には、海外であっても本社から専門の社員が派遣されています。将来的には現地駐在員が対応できるようになれば時間やコストを削減できます。サプライヤー管理課で得たスキル・経験を現地で活かすことが現在の目標です。

2回の留学を経験したことで 視野が広がり、問題解決能力も向上

私は大学時代、SUIJI-SLPという留学プログラムに参加しました。日本とインドネシアの6大学の間で実施される地域社会に貢献する「サーバント・リーダー」の養成を目的としたプログラムです。その中で、インドネシア人の学生と2人で英語の通じない農村部で共同生活を送りながら活動。異文化理解などについて深く考えるようになり、それは濃密な3週間を過ごし、海外留学の虜になりました。さらに長期間の活動に挑戦したくなり、3年では「トビタテ! 留学 JAPAN」に応募。サゴヤシから採れるサゴヤシでん粉とハラルフードをテーマにした留学計画が採択され、インドネシアの農村部にホームステイしながら調査を行い、ハラルフードの可能性についても考察。1年間の留学経験を通じて視野が広がり、問題解決に必要な知識やスキルも向上しました。

SUIJI-SLPプログラムへの参加がすべてのきっかけとなり、現在の自身の基盤といえるほど大きく成長できました。大学にはさまざまなイベントやプログラムが用意されています。私は留学でしたが、自分なりの挑戦をみつめて、大学時代にしかできない経験をしてほしいと思います。

SUIJI-SLPプログラムへの参加こそが
人生のターニングポイントになりました



静岡旅行



農福のサランタさんも適合農学研究科のご出身です。



シンガポール旅行

Kadai SALON

香川大学からつながる校友コミュニケーション



VOL. **05**
2025



Kadai SALON

2025 VOL. 05

〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号 香川大学校友会事務局

TEL:087-83211985

香川大学校友会



リングで頂点を目指す!!
文武両道のプロキックボクサー

医学部 医学科 5年
切詰 大貴
Daiki Kirizume

3/30 2025
[SUN]

RIZIN.50

あなぶきアリーナ香川大会

参戦!!

医学の道を志しながら、 プロキックボクサーとしてリングに立つ

高知県出身で、小さい頃に親の勧めで空手を始めました。高校2年生まで続け、自分の流派の全国大会では嬉しいことに何度か優勝することもできました。空手の稽古を通して培われた技術はもちろん、精神的な強さは今の僕にとって大きな支えとなっています。

高校卒業後は県外で一人暮らししたいと思っていました。また、アメリカで医師をしている叔父の影響もあり香川大学医学部に進学しました。受験勉強のため高校3年生で空手は一旦区切りをつけましたが、もともと格闘技を観戦することが好きで、キックボクシングに興味を持っていました。大学に入ってから思い切って、今お世話になっているジムに連絡を取りました。もともと児童を対象としたジムで、自分の思いを伝えたとこ指導していただけることになりました。今は週に3、4回はジムで練習をし、さらに他のジムへの出稽古にも行かせてもらっています。

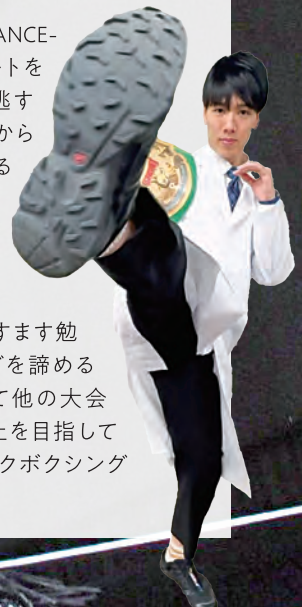
もちろん、医学部の勉強とキックボクサーとしての練習を両立させることは簡単ではありません。実は2年生の時に留年を経験しています。でも、それを機に「留年したからキックボクシングを諦める」のではなく、「勉強もキックボ

クシングも、もっと頑張ろう」と気持ちを切り替えました。アマチュア時代にはK-1カレッジという大学生の大会で優勝することができ、2022年12月にはプロデビューを果たしました。

INNOVATIONスーパーライト級チャンピオンに

2024年12月8日に行われた大会「RESISTANCE-18」で優勝し、念願のチャンピオンベルトを獲得することができました。このチャンスを逃すと次がいつ来るか分からず、さらに香川からもたくさんの人が応援に来てくれているというプレッシャーの中での試合でした。期待に応えたい、絶対に負けられないという強い気持ちでリングに上がりました。

これからは医師国家試験に向けてますます勉強が忙しくなりますが、キックボクシングを諦めるつもりはありません。チャンピオンとして他の大会の強い選手たちとも戦っていき、さらに上を目指していきます。そしていつか、医師としてキックボクシングに関わりたいと思っています。



ALPHA COLLO